

# 予 算 要 求 資 料

令和4年度3月補正予算

支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

## 事業名 全国旅行支援事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 観光国際局 観光誘客推進課 国内誘客係 電話番号：058-272-1111(内3075)

E-mail：c11336@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 98,230 千円 (現計予算額： 865,240 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	865,240	865,240	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	98,230	98,230	0	0	0	0	0	0	0
決定額									

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、外国人観光客は減少し、国内観光客も外出を自粛するなど、県内の観光事業者はこれまで経験したことのない非常に厳しい状況にある。

県では、県内観光事業者の回復に向けた需要喚起策「ほっと一息、ぎふの旅」キャンペーンを実施してきたが、引き続き、感染状況を見極めつつ、全国を対象とした観光需要喚起策を実施するとともに、(一社)岐阜県観光連盟と連携し、電子観光クーポン「ぎふ旅コイン」事業を実施し、観光消費の拡大を促進する。

### (2) 事業内容

#### ○ぎふ旅コインの配付

[補助先] (一社)岐阜県観光連盟 [補助率] 国10/10

[内 容] 県内土産店等で利用可能な電子クーポンを発行

・割引単価：2,000円(平日)、1,000円(休日)

・配付方法：上記宿泊割引利用者へ配付

## (3) 県負担・補助率の考え方

岐阜県全域にまたがる国内誘客の推進は県の事業であり、県負担は妥当。

## (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	98,230	ポイント原資、事務局運営費
合計	98,230	

## 決定額の考え方

## 4 参考事項

## (1) 各種計画での位置づけ

岐阜県長期構想

Ⅱ ふるさと岐阜県の資源を活かした活力づくり

3 地域の魅力を高め、観光交流を拡大し、消費を増やす

(人を呼び込み、地域の消費を拡大するために)

岐阜県観光振興プラン

## (2) 国・他県の状況

R2年度 国GoToトラベル事業を実施。各県上乘せ補助等を実施。

R3年度 地域観光事業支援(国補助)を実施。

R4年度 地域観光事業支援の延長及び全国旅行支援実施。

## (3) 後年度の財政負担

緊急的なコロナ対策事業であることから、後年度の財政負担はない。

## 県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

### (事業内容)

補助事業名	全国旅行支援事業費補助金
補助事業者(団体)	(一社) 岐阜県観光連盟 (理由) 県内最大の民間観光団体であり、県と連携し、観光産業の発展に努めている。
補助事業の概要	(目的) 電子観光クーポン「ぎふ旅コイン」事業実施により、県内観光産業の支援を行う。 (内容) 県の実施する「ほっと一息、ぎふの旅」キャンペーンにて「ぎふ旅コイン」の配付を行う。
補助率・補助単価等	定額・定率・その他(例: 人件費相当額) (内容) 定率 10/10 (ポイント原資、事務費) (理由) 県の国内誘客事業と連携する事業
補助効果	岐阜県観光消費額の増大
終期の設定	終期 4 年度 (理由) コロナ禍での緊急的な支援事業

### (事業目標)

- ・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか  
新型コロナウイルスにより落ち込んだ観光産業の速やかな回復を図る。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R7)	
					達成率	
①観光消費額	/	1,785億円	1,900億円	2,400億円	3,300億円	54.1%
②観光入込客数 (実数)	/	3,451万人	3,200万人	4,000万人	4,900万人	70.4%

補助金交付実績 (単位: 千円)	H30年度	R元年度	R2年度
	/	/	/

## (これまでの取組内容と成果)

令和2年度	
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和3年度	
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

## (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</li> </ul>	
(評価) 3	新型コロナの影響でインバウンドが見込めない中、国内宿泊を促進することは必須であり、事業者からの需要喚起策実施要望も強い。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</li> </ul>	
(評価) 2	令和3年度、4年度に実施した時期の宿泊者数は大幅に伸びている。コロナ禍の収益減からの回復のためには、引き続きの需要喚起は必要。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</li> </ul>	
(評価)	

## (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 閑散期の平日の宿泊が特に厳しく、対策が必要である。また、割引がなくなった場合の影響も視野に入れたソフトランディング対策が必要である。</li> </ul>
--

## (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 観光事業者に対する支援は引き続き必要であるが、コロナ前に戻すための対策や、コロナ禍で変化した旅行形態に対応する必要がある。また、本事業では宿泊事業者以外の観光産業へも幅広く支援を行い、観光消費額の増大を図る。</li> </ul>
---